



厚生労働省

熊本労働局

Press Release

熊本労働局発表
(局長 徳田 剛)
平成 29 年 8 月 29 日

【連絡・照会先】

熊本労働局雇用環境・均等室

室長 松永 涼子

監理官 宮本 浩

(電話) 096-352-3865

(FAX) 096-352-3876

報道関係者 各位

県内の大学生・専修学校生に実施したアンケート結果を取りまとめました ～就職先選択の際に「働きやすさ」を優先が6割～

熊本労働局では本年6月、熊本県内の大学、専修学校の学生・生徒（以下「学生等」という。）が卒業後の就職先を選択する際の判断要素、アルバイト実態を把握する目的でアンケートを実施し、このたび集計結果を取りまとめました。

- 1 アンケート実施時期 平成 29 年 6 月
- 2 アンケート対象 県内4年制大学 10 校、専修学校 5 校の学生等（学校による任意抽出）
- 3 回収数 2,729（男性 1,202 女性 1,401 性別無回答 126）（表 1）
- 4 調査結果のポイント
 - (1) 就職先選択で最優先する要素（表 2、図 1）
 - ①就職先を選択する際に優先する要素は、「働きやすさ」を第 1 順位とした学生等が 58.6%であった。
 - ②「働きやすさ」を感じる具体的要素（内容）について最も多かった回答は「職場の雰囲気が良い」が 80.8%、以下「年次有給休暇が取りやすく、仕事と家庭が両立できる」が 52.9%、「残業・休日勤務が少ない」が 40.7%であった。（表 3、図 2）
 - (2) アルバイト就労時の労働条件の明示等
 - ①アルバイト就労経験のある学生等（全体の 85.2%）に対し、アルバイト就労時にどのように労働条件が示されているか質問したところ、書面による労働条件の通知を受けている者の割合は 54.0%であり、労働条件に関する説明を受けず、労働条件を記した書面も交付されなかった者の割合は 9.7%であった。（表 4、5 図 3、4）

なお、経験したアルバイト業務は飲食関係が最も多かった。
 - ②アルバイトで経験した事象（困り事）で一番多かった回答は、「勤務予定を急遽変更された」（33.3%）であった。なお、困り事が発生した場合の相談先は「友人」が最も多く 20.8%であったが、「誰にも相談しなかった」が 11.5%であり、また「公的機関」への相談は 0.3%であった。（図 5、6 別添調査結果）

アンケート調査結果の概要

1 回収したアンケート回答数

2,729名 なお、回答者の学年・性別による内訳は下表のとおりです。

表1

性別／学年	男	女	性別無回答	合計	構成比
大学1年	76	125	0	201	7.4%
大学2年	140	181	0	321	11.8%
大学3年	438	422	8	868	31.8%
大学4年	460	397	1	858	31.4%
専修1年	41	100	2	143	5.2%
専修2年	22	91	0	113	4.1%
その他の学年	13	71	0	84	3.1%
学年無回答	12	14	115	141	5.2%
合計	1,202	1,401	126	2,729	
構成比	44.0%	51.3%	4.6%		

2 集計結果

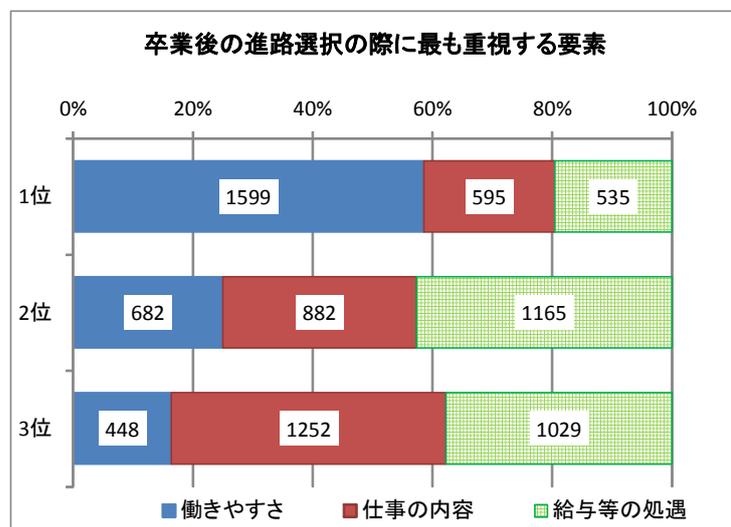
(1) 卒業後の就職先を選択する際の優先事項について

労働条件や職場環境についての「働きやすさ」、能力・専門性の発揮などの「仕事の内容」、給与額・福利厚生など「給与等の処遇」の3つの要素を設定し、就職先を選択する際に優先する要素を第1順位から第3順位まで順位付けを行う質問をしたところ、優先度第1位とした要素は、58.6%が「働きやすさ」と回答しました。

表2

	順位付けで1位とした回答数	比率	順位付けで2位とした回答数	比率	順位付けで3位とした回答数	比率
(総数)	2,729	100.0%	2,729	100.0%	2,729	100.0%
働きやすさ	1,599	58.6%	682	25.0%	448	16.4%
仕事の内容	595	21.8%	882	32.3%	1,252	45.9%
給与等の処遇	535	19.6%	1,165	42.7%	1,029	37.7%

図1



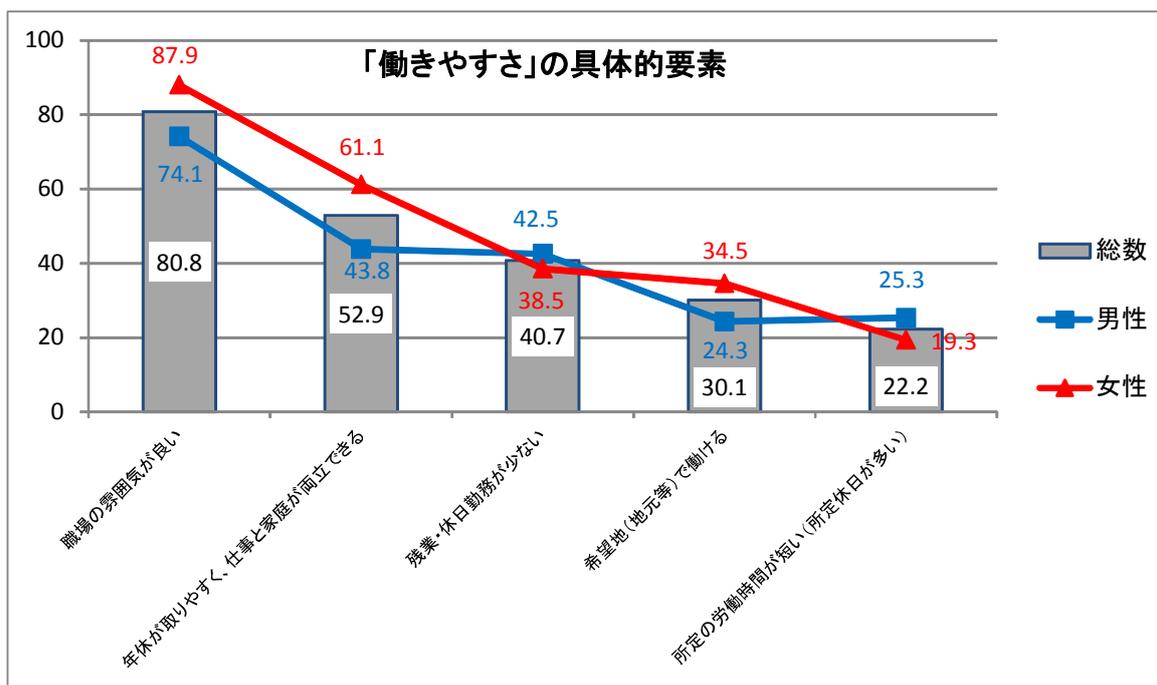
(2) 就職先を選択する際に「働きやすさ」を選択した場合の具体的要素

「働きやすさ」の要素に関し、更に詳細を把握するために、具体的な項目を提示して選択（複数選択可とした）してもらった結果、「職場の雰囲気が良い」を80.8%が選択し、最も多い回答数となりました。以下回答数の多い順で「年次有給休暇が取りやすく、仕事と家庭生活が両立できる」52.9%、「残業・休日勤務が少ない」40.7%が続きました。

表3

具体的要素	回答数	比率
職場の雰囲気が良い	1,292	80.8%
年次有給休暇が取りやすく、仕事と家庭生活が両立できる	846	52.9%
残業・休日勤務が少ない	651	40.7%
希望地(地元など)で働ける	481	30.1%
所定の労働時間が短い(所定休日が多い)	355	22.2%

図2



(3) 学生アルバイト就労の実態について

回収総数 2,729 人のうち 2,325 人 (85.2%) が「アルバイト経験あり」と回答しました。男女別、学年別の内訳は次表のとおりです。

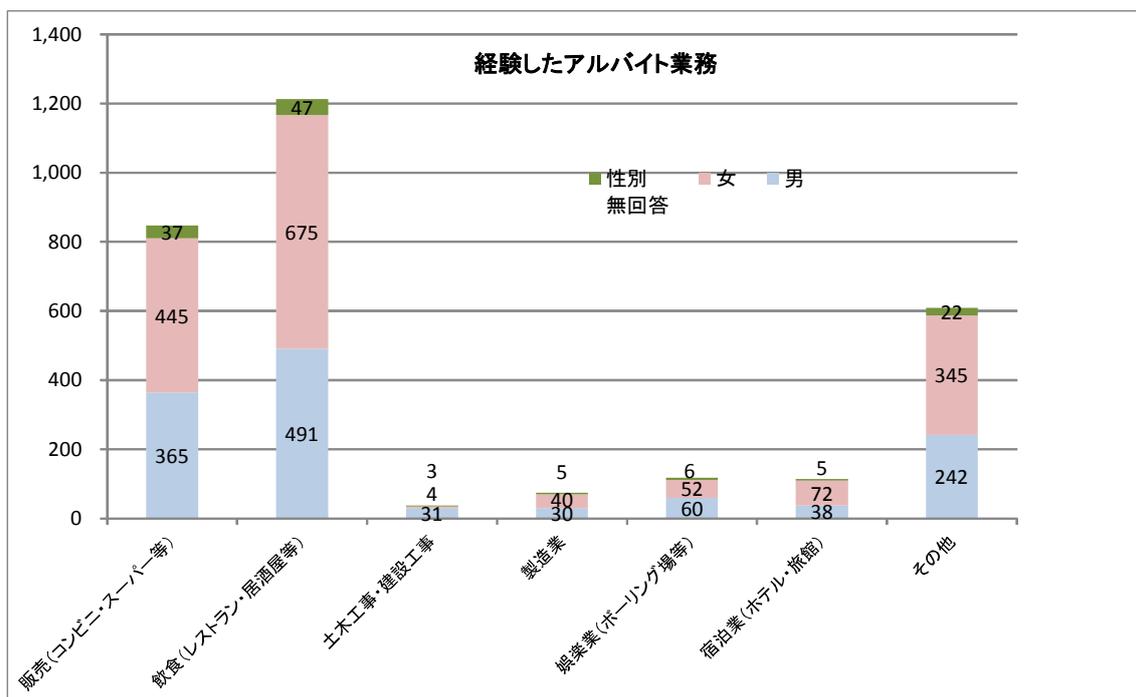
表 4

性別	総数	アルバイト経験あり	アルバイト経験なし	アルバイト経験無回答
男	1,202	999	202	1
女	1,401	1,231	169	1
性別無回答	126	95	31	0

学年別	総数	アルバイト経験あり				アルバイト経験なし				アルバイト経験無回答			
		計	男	女	性別無回答	計	男	女	性別無回答	計	男	女	性別無回答
大学1年	201	114	37	77	0	86	39	47	0	1	0	1	0
大学2年	321	280	125	155	0	41	15	26	0	0	0	0	0
大学3年	868	773	375	391	7	95	63	31	1	0	0	0	0
大学4年	858	759	391	367	1	98	68	30	0	1	1	0	0
専修1年	143	110	29	79	2	33	12	21	0	0	0	0	0
専修2年	113	107	21	86	0	6	1	5	0	0	0	0	0
その他	84	74	12	62	0	10	1	9	0	0	0	0	0
学年無回答	141	108	9	14	85	33	3	0	30	0	0	0	0
合計	2,729	2,325	999	1,231	95	402	202	169	31	2	1	1	0
比率	100.0%	85.2%	36.6%	45.1%	3.5%	14.7%	7.4%	6.2%	1.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%

○アルバイトについて経験した業務別にみると、飲食業が 1,213 件、小売などの販売業が 847 件、等となっています。なお、「その他」の 609 件には、教育産業（学習塾、家庭教師、模擬試験採点等）が 241 件が含まれており、全体で 3 番目の件数となっています。

図 3

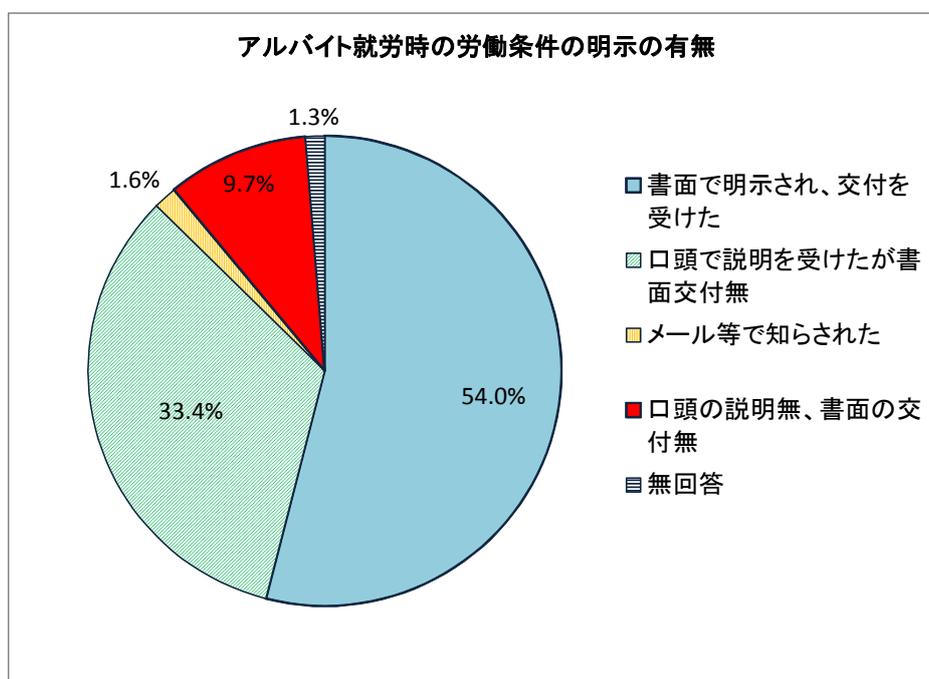


○法定の労働条件明示方法である、書面による労働条件明示（＝「労働条件通知書」の交付）を使用者から受けたか否かを質問したところ、書面による労働条件明示を受けた割合は全体の54.0%でした。一方、労働条件の説明がなく、書面も交付されなかった者の割合は9.7%でした。

表5

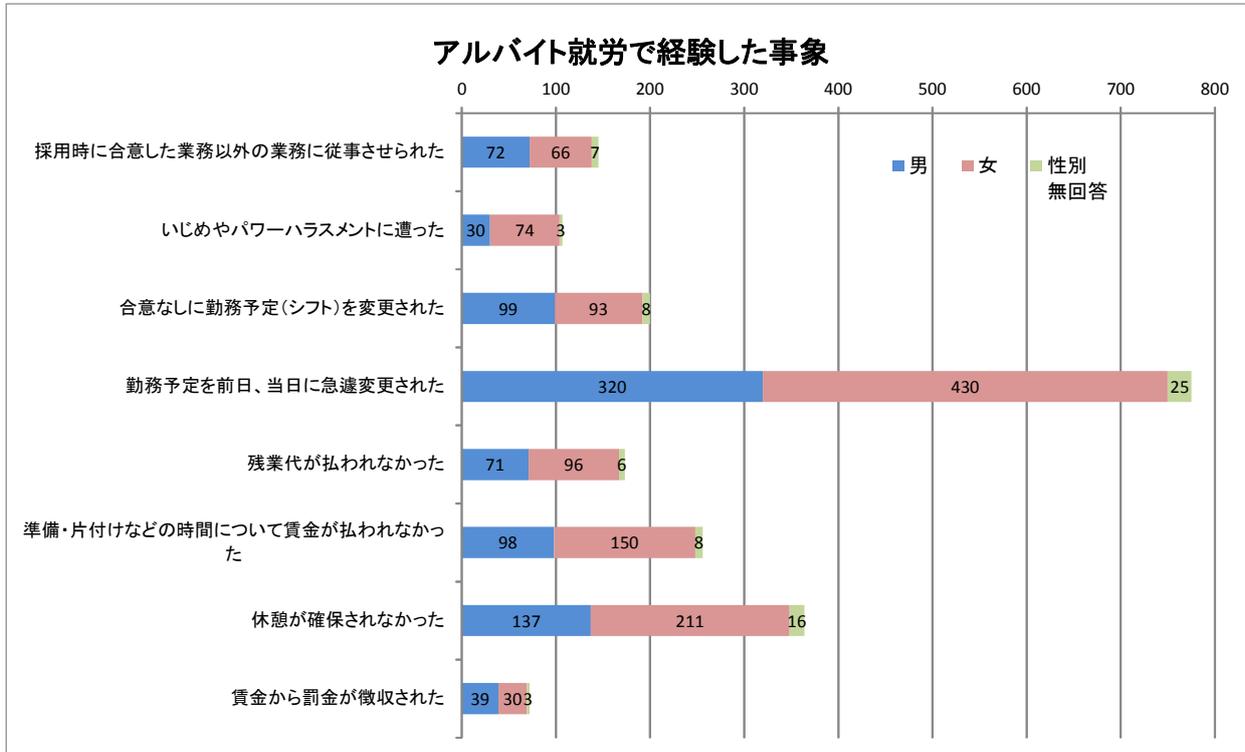
アルバイト就労時の労働条件の提示状況	回答数	比率
労働条件は書面で明示され、交付を受けた	1,256	54.0%
労働条件は口頭で説明を受け、書面は交付されなかった	777	33.4%
労働条件はメール等で知らされた	37	1.6%
労働条件の説明はなく、書面も交付されなかった	225	9.7%
無回答	30	1.3%

図4



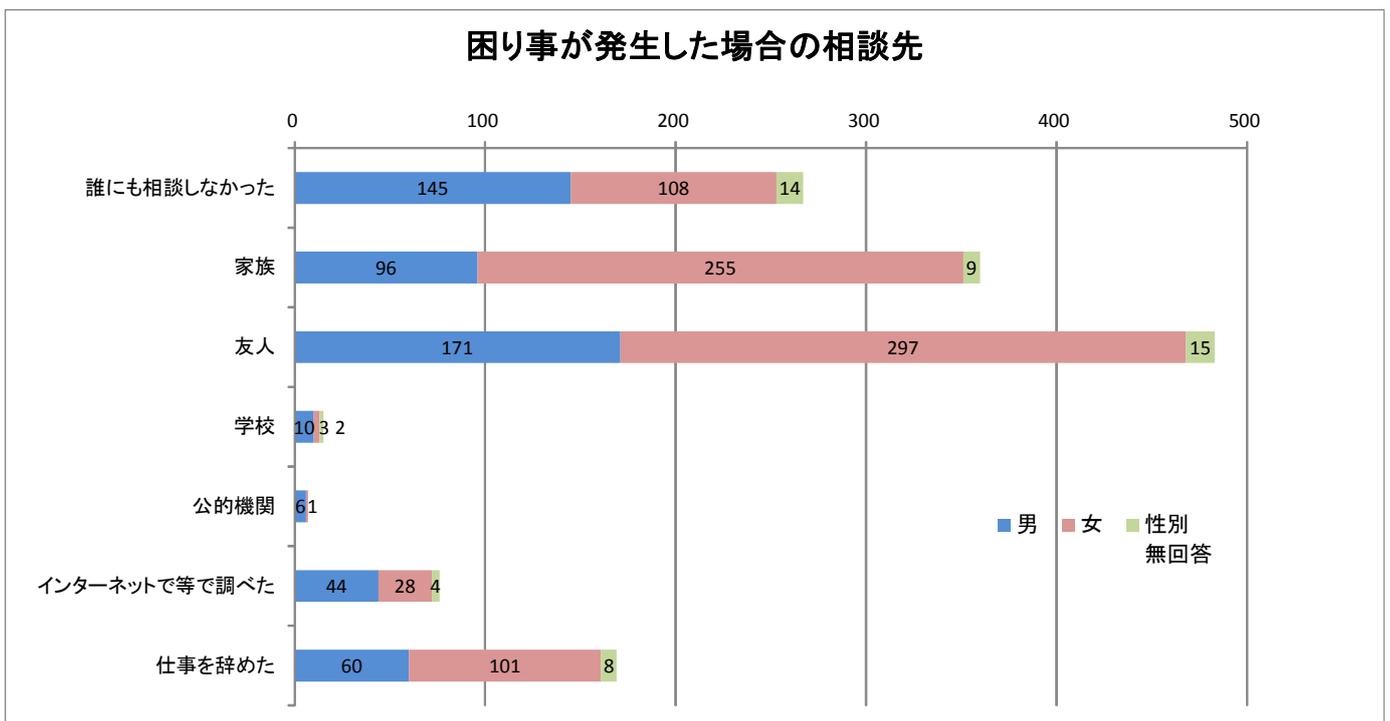
○発生が懸念される職場でのトラブル事象を提示して、その経験の有無を質問したところ、「勤務予定を前日、当日に急遽変更された」について、775人（33.3%）が経験ありと回答しました。次いで「休憩が確保されなかった」（364人（15.7%））、「準備・片付けなどの時間について賃金が払われなかった」（256人（11.0%））の順となっています。

図5



○職場の労働条件等でトラブルが発生した場合の相談先について質問したところ、「友人」が483人（20.8%）、「家族」が360人（15.5%）となっており、「誰にも相談しなかった」が267人（11.5%）で3番目となっています。

図6



大学生・専修学校生の就職先選択・アルバイト就労に関するアンケート調査結果

1 目的

在学する大学生・専修学校生について卒業後の就職先を選択する際の判断となる要素を把握し、加えてアルバイト就労の状況を把握して、就労上の問題点や学業への影響を把握することにより行政施策検討等の資料とする。

なお、卒業後の就職先を選択する際の判断要素については、地元雇用の維持、拡大の施策、働き方改革の取組等へ活用する。

2 実施方法・実施時期

県内の大学、専修学校に趣旨を説明し、アンケート実施に承諾した学校に対し平成 29 年 6 月に実施した。(実施校は大学 10・専修学校 5)

なお、アンケート調査の対象学生・生徒は卒業年次に近い学年を基本とするものの、その範囲は各校が任意に決定したものである。

また、このアンケート実施は、学生アルバイトの労働条件の確認を促す「アルバイトの労働条件を確かめよう！」キャンペーン(平成 29 年 4～7 月)における取組の一環として実施した。

3 回収したアンケート回答数

回答数は 2,729 件であった。(配付数 6,780 回収率 40.25%)

なお、学年・性別による内訳は下表のとおり

性別／学年	男	女	性別 無回答	合計	構成比
大学 1 年	76	125	0	201	7.4%
大学 2 年	140	181	0	321	11.8%
大学 3 年	438	422	8	868	31.8%
大学 4 年	460	397	1	858	31.4%
専修 1 年	41	100	2	143	5.2%
専修 2 年	22	91	0	113	4.1%
その他の学年	13	71	0	84	3.1%
学年無回答	12	14	115	141	5.2%
合計	1,202	1,401	126	2,729	
構成比	44.0%	51.3%	4.6%		

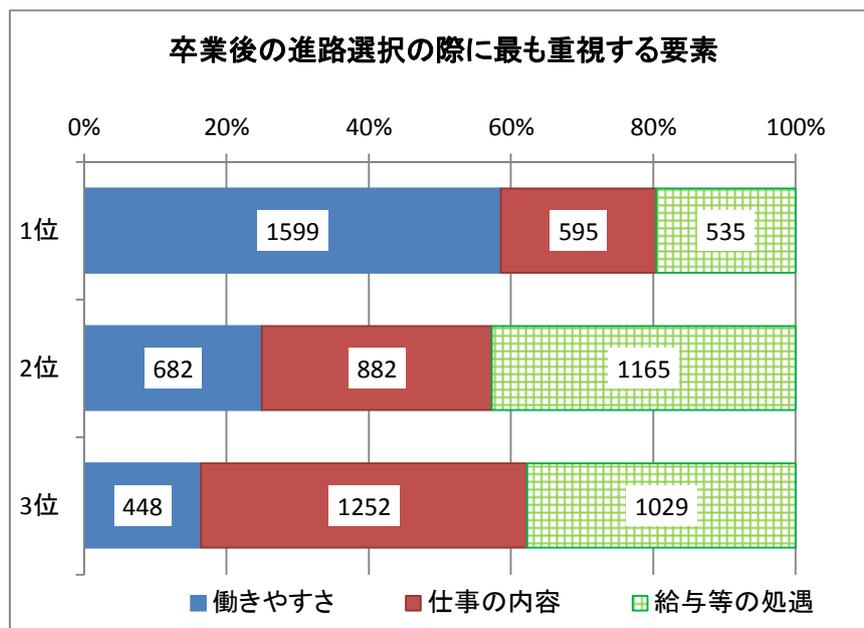
4 アンケート集計結果

(1) 卒業後、就職先を選択する際の優先事項について

労働条件や職場環境についての「働きやすさ」、能力・専門性の発揮などの「仕事の内容」、給与額・福利厚生など「給与等の処遇」の3分野について、就職先を選択する際に優先する分野を第1位から第3位まで順位づけを行った結果のうち、就職先選択で優先度を第1位とした内訳は、

「働きやすさ」	58.6%
「仕事の内容」	21.8%
「給与等の処遇」	19.6%

であり全体の約6割が「働きやすさ」を最優先と回答した。第1順位では「仕事の内容」が「給与等の処遇」を上回っているものの、第2順位では「給与等の処遇」が「仕事の内容」を上回り、第3順位では「仕事の内容」の比率が最も高い。(表1-1)



さらに条件により比較すると、次の差が認められる。

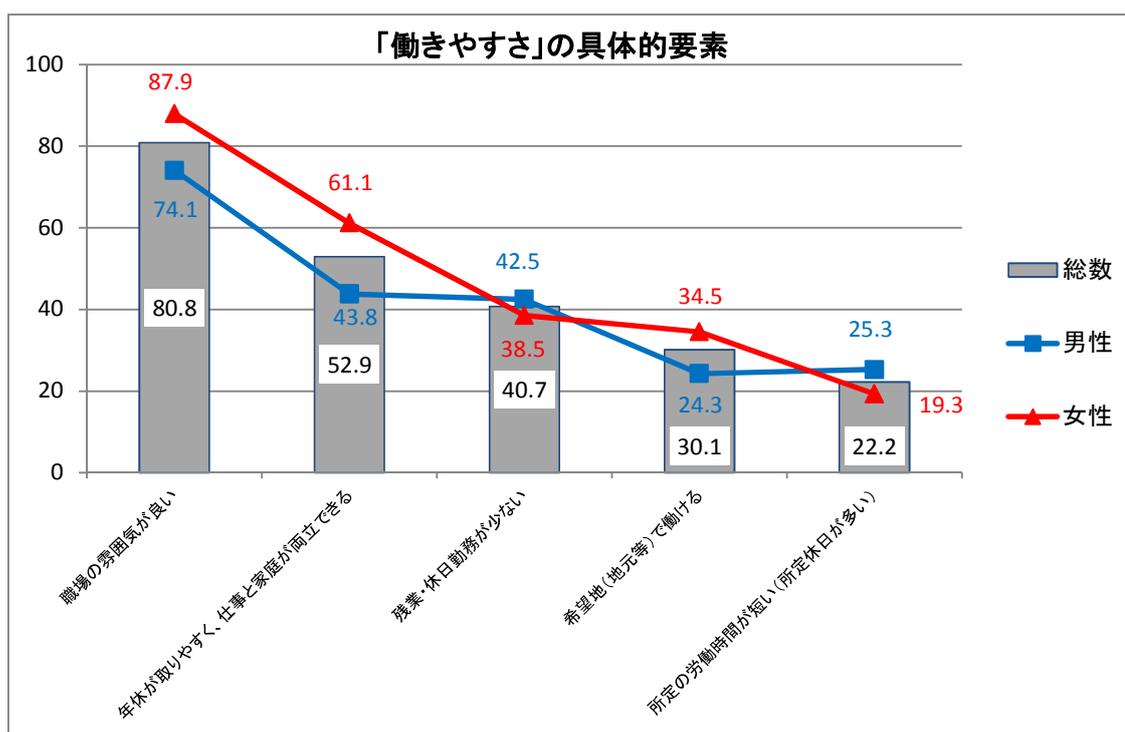
- 性別で比較すると、女子が「働きやすさ」を選択する割合が男子より3.4ポイント高く、男子が「仕事の内容」を選択する割合は2.9ポイント女子より高い。(表1-2)
- 大学3年、4年で比較すると、大学4年では「仕事の内容」を選択する割合が大学3年よりも6.7ポイント高く、大学3年では「働きやすさ」を選択する割合が大学4年よりも3.5ポイント高い。「給与等の処遇」を選択する割合は大学3、4年とも調査全体の回答比率を下回った。(表1-3)
- アルバイト歴の有無で比較すると、アルバイト歴のある学生・生徒の方が「働きやす

さ」を選択する割合がアルバイト歴のない学生・生徒よりも 1.1 ポイント高い。(表 1-4)

(2) 就職先を選択する際に「働きやすさ」を選択した場合の具体的要素

選択された「働きやすさ」を更に具体的に把握するために、具体的項目を複数提示し、自己が該当すると思う項目を選択(複数選択可とした)させた結果、以下の項目を選択する割合が高かった。(表 2-1)

「職場の雰囲気が良い」	80.8%
「年次有給休暇が取りやすく、仕事と家庭生活が両立できる」	52.9%
「残業・休日勤務が少ない」	40.7%
「希望地(地元など)で働ける」	30.1%
「所定の労働時間が短い(所定休日が多い)」	22.2%



さらに条件により比較すると、次の差が認められる。

○性別で比較すると、男子が「残業・休日勤務が少ない」「所定の労働時間が短い(所定休日が多い)」を選択する割合が女子よりそれぞれ 4.0、6.0 ポイント高く、女子が「職場の雰囲気が良い」「年次有給休暇が取りやすく、仕事と家庭生活が両立できる」「希望地(地元など)で働ける」を選択する割合が男子より 13.8、17.3、10.2 ポイント高い。(表 2-2)

○大学 3 年、4 年で比較すると、大学 4 年では「希望地(地元など)で働ける」を選択

する割合が大学3年よりも7.3ポイント高く、大学3年では「年次有給休暇が取りやすく、仕事と家庭生活が両立できる」「残業・休日勤務が少ない」「所定の労働時間が短い（所定休日が多い）」を選択する割合がそれぞれ6.9、3.4、5.9ポイント高い。（表2-3）

- アルバイト歴の有無で比較すると、アルバイト歴のある学生・生徒の方が「年次有給休暇が取りやすく、仕事と家庭生活が両立できる」を選択する割合がアルバイト歴のない学生・生徒より1.2ポイント高く、アルバイト歴のない学生・生徒が「残業・休日勤務が少ない」「希望地（地元など）で働ける」「所定の労働時間が短い（所定休日が多い）」を選択する割合がアルバイト歴のある学生・生徒よりも8.9、10.3、9.8ポイント高い。（表2-4）

（3）就職先を選択する際に「仕事の内容」を選択した場合の具体的要素

選択された「仕事の内容」を更に具体的に把握するために、具体的項目を複数提示し、自己が該当すると思う項目を選択（複数選択可とした）させた結果、以下の項目を選択する割合が高かった。（表3-1）

「自分の能力、専門性が発揮できる」	83.4%
「社会から評価されている仕事」	26.7%
「大手企業である」	8.7%
「役員や管理職になる可能性」	5.9%

さらに条件により比較すると、次の差が認められる。

- 性別で比較すると、男子が「社会から評価されている仕事」「大手企業である」「役員や管理職になる可能性」を選択する割合が女子よりそれぞれ6.2、5.8、3.6ポイント高く、女子は「自分の能力、専門性が発揮できる」を選択する割合が男子より7.4ポイント高い。（表3-2）
- 大学3年、4年で比較すると、大学4年では「自分の能力、専門性が発揮できる」を選択する割合が大学3年より2.5ポイント高く、大学3年では「役員や管理職になる可能性」を選択する割合が大学4年より3.9ポイント高い。また、「社会から評価されている仕事」を選択する割合は大学3、4年とも調査全体の回答比率を下回り、「大手企業である」を選択する割合は大学3、4年とも調査全体の回答比率を上回った。（表3-3）
- アルバイト歴の有無で比較すると、アルバイト歴のない学生・生徒の方が「自分の能力、専門性が発揮できる」「社会から評価されている仕事」を選択する割合がアルバイト歴のある学生・生徒よりそれぞれ2.8、6.1ポイント高い。（表3-4）

(4) 就職先を選択する際に「給与等の処遇」を選択した場合の具体的要素

選択された「給与等の処遇」を更に具体的に把握するために、具体的項目を複数提示し、自己が該当すると思う項目を選択（複数選択可とした）させた結果、以下の項目を選択する割合が高かった。（表4-1）

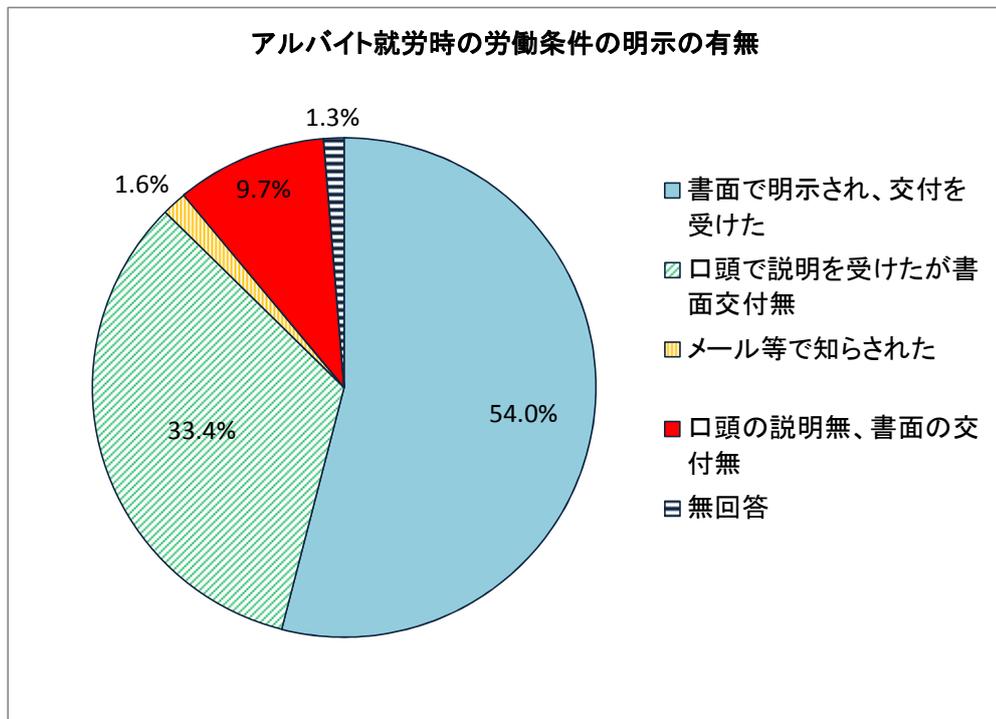
「給与（賞与を含む）が他社より高い」	78.3%
「福利厚生が充実している」	44.5%
「退職金制度がある」	24.1%

さらに条件により比較すると、次の差が認められる。

- 性別で比較すると、男子がどの項目においても選択する割合が女子を上回っている。特に「退職金制度がある」は女子を 5.5 ポイント上回っている。（表4-2）
- 大学3年、4年で比較すると、大学4年では「福利厚生が充実している」を選択する割合が大学3年より 2.5 ポイント高く、大学3年では「給与（賞与を含む）が他社より高い」「退職金制度がある」を選択する割合が大学4年よりそれぞれ 8.0、5.1 ポイント高い。（表4-3）
- アルバイト歴の有無で比較すると、アルバイト歴のない学生・生徒の方が「福利厚生が充実している」「退職金制度がある」を選択する割合がアルバイト歴のある学生・生徒よりそれぞれ 14.8、20.9 ポイント高い。（表4-4）

(5) 学生アルバイト就労に関する調査結果について

- 回収総数 2,729 人のうち 2,325 人 (85.2%) が「アルバイト経験あり」と回答した。男女別、学年別の内訳は表5-1のとおり。
- 学生アルバイトが主として従事しているのは飲食業(1,213件)、小売などの販売業(847件)における業務である。(表5-2)なお、「その他」の項目(609件)に教育産業(学習塾、家庭教師、模擬試験採点等)に従事する 241 件が含まれ、これらの産業に次ぐ件数である。
- アルバイト就労歴で実労働時間の長い経験を対象としたところ、1日当たり8時間を超える労働を経験した者が 32.9%であり、また深夜業(午後10時～午前5時)を含む業務の経験をした者が 38.9%であった。(表5-3、5-4)
- 法定の労働条件明示方法である、書面による労働条件明示(=「労働条件通知書」の交付)を使用者から受けたか否かを調査したところ、書面による労働条件明示を受けた割合は全体の 54.0%であった。労働条件の説明がなく、書面も交付されなかった者の割合が 9.7%であった。(表5-5)



- 事業主が指定した勤務予定（シフト）により、授業・試験への支障が生じた経験を持つ学生・生徒は17.7%であった。（表5－6）
- アルバイトを辞めたくても辞められなかった経験を持つ学生・生徒は13.5%であった。（表5－7）
- 発生が懸念される職場でのトラブル事象を提示して、その経験の有無を尋ねたところ、「勤務予定を前日、当日に急遽変更された」について、775件（33.3%）が経験ありと回答した。次いで「休憩が確保されなかった」（364件（15.7%））、「準備・片付けなどの時間について賃金が払われなかった」（256件（11.0%））の順であった。（表5－8）
- 職場の労働条件等でトラブルが発生した場合の相談先は「友人」（483件）、「家族」（360件）が多く、次いで「誰にも相談しなかった」（267件）が続いている。（表5－9）

卒業後の進路選択の際に最も重視する要素
「働きやすさ」「仕事の内容」「給与等の処遇」について順位付けの結果

【表1-1】全体 選択要素の順位付け

	順位付けで1位 とした回答数	比率	順位付けで2位 とした回答数	比率	順位付けで3位 とした回答数	比率
(総数)	2,729	100.0%	2,729	100.0%	2,729	100.0%
働きやすさ	1,599	58.6%	682	25.0%	448	16.4%
仕事の内容	595	21.8%	882	32.3%	1,252	45.9%
給与等の処遇	535	19.6%	1,165	42.7%	1,029	37.7%

【表1-2】男女別 最優先選択要素(順位付け第1位)

	男	比率	女	比率	性別無回答
(総数)	1,202	100.0%	1,401	100.0%	126
働きやすさ	680	56.6%	840	60.0%	
仕事の内容	281	23.4%	287	20.5%	
給与等の処遇	241	20.0%	274	19.6%	

【表1-3】学年別 最優先選択要素(順位付け第1位)

	大学4年	比率	大学3年	比率	大学 1,2年	比率	専修 1,2年	比率	その他 の学年 無回答	比率
(総数)	858	100.0%	868	100.0%	522	100.0%	256	100.0%	225	100.0%
働きやすさ	487	56.8%	523	60.3%	295	56.5%	157	61.3%	137	60.9%
仕事の内容	232	27.0%	176	20.3%	101	19.3%	40	15.6%	46	20.4%
給与等の処遇	139	16.2%	169	19.5%	126	24.1%	59	23.0%	42	18.7%

【表1-4】アルバイト歴の有無別 最優先選択要素(順位付け第1位)

就職先選択要素	アルバイト歴 あり	比率	アルバイト歴 なし	比率	アルバイト歴 無回答
(総数)	2,325	100.0%	402	100.0%	2
働きやすさ	1,366	58.8%	232	57.7%	
仕事の内容	504	21.7%	91	22.6%	
給与等の処遇	455	19.6%	79	19.7%	

就職先を選択する際に「働きやすさ」を最優先する者に対し、
「働きやすさ」の具体的要素を例示し、該当すると思うものを選択してもらった結果

【表2-1】全体「働きやすさ」の選択要素(MA)

具体的要素	回答数	比率
(総数)	1,599	100.0%
職場の雰囲気が良い	1,292	80.8%
年次有給休暇が取りやすく、仕事と家庭生活が両立できる	846	52.9%
残業・休日勤務が少ない	651	40.7%
希望地(地元など)で働ける	481	30.1%
所定の労働時間が短い(所定休日が多い)	355	22.2%

【表2-2】男女別「働きやすさ」の選択要素(MA)

具体的要素	男		女	
	回答数	比率	回答数	比率
(総数)	680	100.0%	840	100.0%
職場の雰囲気が良い	504	74.1%	738	87.9%
年次有給休暇が取りやすく、仕事と家庭生活が両立できる	298	43.8%	513	61.1%
残業・休日勤務が少ない	289	42.5%	323	38.5%
希望地(地元など)で働ける	165	24.3%	290	34.5%
所定の労働時間が短い(所定休日が多い)	172	25.3%	162	19.3%

【表2-3】学年別「働きやすさ」の選択要素(MA)

具体的要素	大学4年		大学3年	
	回答数	比率	回答数	比率
(総数)	487	100.0%	523	100.0%
職場の雰囲気が良い	402	82.5%	423	80.9%
年次有給休暇が取りやすく、仕事と家庭生活が両立できる	238	48.9%	292	55.8%
残業・休日勤務が少ない	192	39.4%	224	42.8%
希望地(地元など)で働ける	167	34.3%	141	27.0%
所定の労働時間が短い(所定休日が多い)	98	20.1%	136	26.0%

【表2-4】アルバイト歴の有無別「働きやすさ」の選択要素(MA)

具体的要素	アルバイト歴あり		アルバイト歴なし	
	回答数	比率	回答数	比率
(総数)	1,366	100.0%	232	100.0%
職場の雰囲気が良い	1,102	80.7%	188	81.0%
年次有給休暇が取りやすく、仕事と家庭生活が両立できる	723	52.9%	120	51.7%
残業・休日勤務が少ない	538	39.4%	112	48.3%
希望地(地元など)で働ける	389	28.5%	90	38.8%
所定の労働時間が短い(所定休日が多い)	284	20.8%	71	30.6%

就職先を選択する際に「仕事の内容」を最優先する者に対し、
「仕事の内容」の具体的要素を例示し、該当すると思うものを選択してもらった結果

【表3-1】全体「仕事の内容」の選択要素(MA)

具体的要素	回答数	比率
(総数)	595	100.0%
自分の能力、専門性が発揮できる	496	83.4%
社会から評価されている仕事	159	26.7%
大手企業である	48	8.1%
役員や管理職になる可能性	35	5.9%

【表3-2】男女別「仕事の内容」の選択要素(MA)

具体的要素	男		女	
	回答数	比率	回答数	比率
(総数)	281	100.0%	287	100.0%
自分の能力、専門性が発揮できる	225	80.1%	251	87.5%
社会から評価されている仕事	85	30.2%	69	24.0%
大手企業である	30	10.7%	14	4.9%
役員や管理職になる可能性	22	7.8%	12	4.2%

【表3-3】学年別「仕事の内容」の選択要素(MA)

具体的要素	大学4年		大学3年	
	回答数	比率	回答数	比率
(総数)	232	100.0%	176	100.0%
自分の能力、専門性が発揮できる	197	84.9%	145	82.4%
社会から評価されている仕事	61	26.3%	46	26.1%
大手企業である	21	9.1%	17	9.7%
役員や管理職になる可能性	12	5.2%	16	9.1%

【表3-4】アルバイト歴の有無別「仕事の内容」の選択要素(MA)

具体的要素	アルバイト歴あり		アルバイト歴なし	
	回答数	比率	回答数	比率
(総数)	504	100.0%	91	100.0%
自分の能力、専門性が発揮できる	418	82.9%	78	85.7%
社会から評価されている仕事	130	25.8%	29	31.9%
大手企業である	41	8.1%	7	7.7%
役員や管理職になる可能性	30	6.0%	5	5.5%

就職先を選択する際に「給与等の処遇」を最優先する者に対し、「給与等の処遇」の具体的要素を例示し、該当すると思うものを選択してもらった結果

【表4-1】全体 「給与等処遇」の優先要素(MA)

具体的要素	回答数	比率
(総数)	535	100.0%
給与(賞与を含む)が他社より高い	419	78.3%
福利厚生が充実している	238	44.5%
退職金制度がある	129	24.1%

【表4-2】男女別 「給与等処遇」の優先要素(MA)

具体的要素	男		女	
	回答数	比率	回答数	比率
(総数)	241	100.0%	274	100.0%
給与(賞与を含む)が他社より高い	193	80.1%	215	78.5%
福利厚生が充実している	110	45.6%	118	43.1%
退職金制度がある	66	27.4%	60	21.9%

【表4-3】学年別 「給与等処遇」の優先要素(MA)

具体的要素	大学4年		大学3年	
	回答数	比率	回答数	比率
(総数)	139	100.0%	169	100.0%
給与(賞与を含む)が他社より高い	100	71.9%	135	79.9%
福利厚生が充実している	73	52.5%	78	46.2%
退職金制度がある	29	20.9%	44	26.0%

【表4-4】アルバイト歴の有無別 「給与等処遇」の優先要素(MA)

具体的要素	アルバイト歴あり		アルバイト歴なし	
	回答数	比率	回答数	比率
(総数)	455	100.0%	79	100.0%
給与(賞与を含む)が他社より高い	356	78.2%	62	78.5%
福利厚生が充実している	192	42.2%	45	57.0%
退職金制度がある	95	20.9%	33	41.8%

学生アルバイトに関する集計結果

【表5-1】アルバイトの経験の有無

性別	総数	アルバイト経験あり	アルバイト経験なし	アルバイト経験無回答
男	1,202	999	202	1
女	1,401	1,231	169	1
性別無回答	126	95	31	0

学年別	総数	アルバイト経験あり				アルバイト経験なし				アルバイト経験無回答			
		計	男	女	性別無回答	計	男	女	性別無回答	計	男	女	性別無回答
大学1年	201	114	37	77	0	86	39	47	0	1	0	1	0
大学2年	321	280	125	155	0	41	15	26	0	0	0	0	0
大学3年	868	773	375	391	7	95	63	31	1	0	0	0	0
大学4年	858	759	391	367	1	98	68	30	0	1	1	0	0
専修1年	143	110	29	79	2	33	12	21	0	0	0	0	0
専修2年	113	107	21	86	0	6	1	5	0	0	0	0	0
その他	84	74	12	62	0	10	1	9	0	0	0	0	0
学年無回答	141	108	9	14	85	33	3	0	30	0	0	0	0
合計	2,729	2,325	999	1,231	95	402	202	169	31	2	1	1	0
比率	100.0%	85.2%	36.6%	45.1%	3.5%	14.7%	7.4%	6.2%	1.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%

【表5-2】アルバイト業務(経験したものをすべて選択)

経験分野	合計	男	女	性別無回答
販売(コンビニ・スーパー等)	847	365	445	37
飲食(レストラン・居酒屋等)	1,213	491	675	47
土木工事・建設工事	38	31	4	3
製造業	75	30	40	5
娯楽業(ボーリング場等)	118	60	52	6
宿泊業(ホテル・旅館)	115	38	72	5
その他	609	242	345	22

【表5-3】最も長時間のアルバイト
(1日あたりの実労働時間)

実労働時間	回答数	比率
0~4時間	206	8.9%
4超~6時間	634	27.3%
6超~8時間	715	30.8%
8時間超	766	32.9%
無回答	4	0.2%

【表5-4】最も長時間のアルバイト
(深夜業の有無)

深夜業の有無	回答数	比率
深夜業を含む	904	38.9%
深夜業を含まない	762	32.8%
無回答	659	28.3%

学生アルバイトに関する集計結果

【表5-5】アルバイト就労時に使用者から労働条件の説明・「労働条件通知書」交付の有無

アルバイト就労時の労働条件の提示状況	回答数	比率
労働条件は書面で明示され、交付を受けた	1,256	54.0%
労働条件は口頭で説明を受け、書面は交付されなかった	777	33.4%
労働条件はメール等で知らされた	37	1.6%
労働条件の説明はなく、書面も交付されなかった	225	9.7%
無回答	30	1.3%

【表5-6】事業主が指定した勤務予定(シフト)による授業・試験への支障の有無

	回答数	比率
授業・試験に支障が出た経験あり	412	17.7%
授業・試験に支障が出た経験なし	1,905	81.9%
無回答	8	0.3%

【表5-7】アルバイトを辞めたくても辞められなかった経験の有無

	回答数	比率
辞められなかった経験あり	314	13.5%
辞められなかった経験なし	2,006	86.3%
無回答	5	0.2%

【表5-8】アルバイト就労時に経験した事象(MA)

事象	合計	比率	性別		性別 無回答
			男	女	
(アルバイト経験あり 総数)	2,325	100.0%	999	1,231	95
採用時に合意した業務以外の業務に従事させられた	145	6.2%	72	66	7
いじめやパワーハラスメントに遭った	107	4.6%	30	74	3
賃金が全く払われなかった	8	0.3%	6	1	1
賃金の支払が遅れた	47	2.0%	22	23	2
賃金額が契約した額より少なかった	40	1.7%	13	25	2
合意なしに勤務予定(シフト)を変更された	200	8.6%	99	93	8
勤務予定を前日、当日に急遽変更された	775	33.3%	320	430	25
年次有給休暇を取得したくても取得できなかった	44	1.9%	28	14	2
残業代が払われなかった	173	7.4%	71	96	6
準備・片付けなどの時間について賃金が払われなかった	256	11.0%	98	150	8
休憩が確保されなかった	364	15.7%	137	211	16
賃金から罰金が徴収された	72	3.1%	39	30	3

【表5-9】労働条件などで困ったことが発生した時の相談先(MA)

相談先	合計	性別		性別 無回答
		男	女	
誰にも相談しなかった	267	145	108	14
家族	360	96	255	9
友人	483	171	297	15
学校	15	10	3	2
公的機関	7	6	1	0
インターネット等で調べた	76	44	28	4
仕事を辞めた	169	60	101	8
相談が必要な事案は発生しなかった	1,261	571	637	53